



AIYES 通信

横浜スペイン協会会報

発行：横浜スペイン協会 横浜市鶴見区岸谷 2-18-4 年4回発行（1月4月7月11月）

祝ナショナルデー

2019.10.11 於スペイン大使館

今年は、恒例のスペイン大使館主催のナショナルデーレセプションに初めてお招きを頂き、横浜スペイン協会として下山綾子会長夫人、岩田岳久理事ともに出席して参りました。会場は、高層ビルが立ち並ぶ六本木一丁目駅近くのスペイン大使館内の静かで、緑豊かな中庭で行われました。当日は、大型の台風が東海・関東に近づいている状況でお天気が心配される中行われました。招待客は国会議員、関係省庁幹部、各国大使館、民間企業幹部、スペイン友好協会関係者、在日スペインの方々など。数百人レベルの大変多くの方々に参加されました。冒頭のホルヘ・トレド大使のご挨拶は、1. 日本とスペイン両国はフランシスコ・ザビエルの来日以来 500 年以上の歴史があり、最近では安倍首相がスペインを訪問した際、両国の関係を「戦略的パートナーシップ」に格上げして幅広い分野での協力を推進することで合意した。2. スペイン人は日本が好きであり、多くのスペイン人が日本を訪れ、また日本人もスペインを旅行する人が増えている。私も今回二度目の日本駐在となったことを大変喜んでおり、両国の絆がより深まるための仕事が出来ればよいと考えていると述べられました。続いて、山東昭子参議院議長からのナショナルデーへの祝辞が述べられ、次に外務省の若宮健嗣外務副大臣は、天皇即位の儀に、フェリペ6世スペイン国王王妃両陛下の日本滞在が有意義なものとなることを祈念しているのご挨拶と乾杯のご発声がありました。次に、両国の国歌を横浜スペイン協会がコーディネートした演奏者の琴と鼓により演奏した後は歓談時間となり、スペイン産のワイン、シェリー、ハモン、パエージャ等々を頂きながら、スペインと関わりある方々と楽しくお話をする機会を持つことができました。今回このような機会を持ちスペイン大使館との方々との交流もより深まった1日でした。また、翌々日には嬉しいニュースが入ってきました。今回スペイン国歌を琴と鼓で演奏した映像が Facebook にのせられ、スペインで大きな反響があり、テレビでも放映されたとの知らせでした。この企画をした横浜スペイン協会としても文化交流のお手伝いが出来たと感じたナショナルデーでした。（武菱邦夫）



●スペイン語クラス

<第15回スペイン語クラス委員会>

2019. 7. 17 於煌蘭

スペイン語クラスの運営にご協力いただいているクラス委員の皆様は年2回(3月と7月)お集まりいただき、運営に関してのご意見等をお聞きするクラス委員会を7月17日に開催した。冒頭、下山会長よりクラス委員の日頃の活動への謝意があり、また最近協会のHPを見てスペイン語クラスの受講を申し込む人が増えており、間口が広がっていることの報告があった。そして、福長理事より4月開講の入門クラスのリリオもHPを通じて多くの受講申し込みがあり、すぐに定員15名に達したこと、前期開講した文法クラスと会話中心のチャルラも人気があり、今期は11クラス、受講者の延べ人数が128名になったとの報告があった。また、夏期講座と特別講座の企画についても案内があった。その後、各クラス委員よりクラスの状況報告と協会への要望事項等が述べられるとともに意見交換も行われた。その結果、来年30周年を迎える協会のイベントへの参加やメンバーが固定化している現状についての意見などをクラス全員から聞くためにアンケートを取り、今後のクラスの運営に役立てることを決めてクラス委員会を終了した。(岩田岳久)



<カタルーニャ：何故独立に向かうのか 歴史背景と今後の展望>

講師：八嶋由香利慶応大学教授

2019. 6. 22 於波止場会館

今年4月にスペインを旅しましたが、マドリードとバルセロナの雰囲気はあまりにも異なることに驚き、またカタルーニャ独立運動の背景も知りたいと思っていたので、タイムリーなテーマの講演でした。八嶋先生の分析は歴史、政治、経済、教育と多角的に光を当てましたが、まずナショナリズムの源は、彼らの言語「カタルーニア語」にあるとのこと。この言語を聞いたこともなくイメージがわからなかったのですが、独自の言語が強烈に結束を強めていることがわかりました。歴史的にも早くから産業革命で富んだバルセロナに比べ、マドリードは田舎で、当時すでに独立の動きがあったのは興味深かったです。個人的に分かったのは、一枚岩と思っていたスペインという大国が、



意外にも国としてのナショナリズムが希薄で脆く、政府が各州をまとめていくことに苦慮している現実でした。ヨーロッパでは、英国のEU離脱の問題もありますが、今後のカタルーニャの自治独立運動の行方は、予断を許さない状況です。個人的には今のままのスペインを望みますが、これまで知らなかったスペインの深層部が見えた気がしました。(大戸正彦)

<横浜スペイン協会 夏期講座に参加して>

2019. 7. 29～8. 7 於かながわ県民センター

本年7月のスペインへの旅でまたスペイン語が身近になったので、その勢いで久しぶりに参加しました。参加者は27名。1回はリタ先生による[アルゼンチン人の習慣・気候・料理と飲物]。遅刻してムードに乗れず理解度は半分でしたがマテ茶の話は面白かったです。2,3回目は昔ヒラソルでお世話になったフラン先生の[スペイン語方言]と[アンダルシアの祭]。最前列の席と聴きなれた声のおかげで理解率は90%でした。4,5回はビクトル先生の[カタルニアの祭]と[独立運動]。たくさんのスライドのおかげで祭の説明はどちらも分かりやすく、現地の人々が皆楽しそうに参加している姿を見て、ぜひ一度行きたくなりました。またキリスト教と祭が本当に密接なことも知りました。独立運動は先生の早口と予備知識・語彙の不足のため理解が難しかったですが、どの国も地域格差の存在が不満を喚起するのだなと改めて納得したことでした。3先生とも参加された最終日昼の懇親会も楽しく、「理解度はともかく毎回2時間たっぷりスペイン語のシャワーを浴びて大満足」というのが



全体の感想です。よい企画をありがとうございました。(佐竹信一)



<特別講座 「スペイン演劇の名誉と森鷗外のカルデロンの翻訳」>

講師：吉田彩子 清泉女子大名誉教授
2019. 9. 20 於かながわ県民センター

9月20日(金)に県民センター会議室にて、吉田彩子先生による「スペイン演劇の名誉と森鷗外のカルデロンの翻訳」というテーマで特別講座が開かれました。吉田先生には『ドン・キホーテ』に引き続いて、10月からセルバンテスの『模範小説集』の講座を半年間開いて頂きます。今回はその合間に先生の



専門から単独のテーマを講義して頂いたものです。森鷗外については「高瀬舟」や「舞姫」などの作品があることを受験勉強程度の知識で知っていましたが、実際の作品を読んだことはなく、ましてや海外小説の翻訳まで出していることは初めて知りました。カルデロンという作者も、その『サラメアの村長』という作品も私たちには馴染みがありません。作品の内容を詳しく書く余裕はありませんが、そのテーマが女性の貞操観念と家族の名誉を守るというドラマチックな筋書きで興味を覚えました。鷗外がこの翻訳を読売新聞に連載で載せながら、途中で中断してしまう背景が、日本人の海外文学に対する理解度が低いと思っていた鷗外の考えにあることは面白かったです。スペイン人の純粹の血を守るという概念が高く評価されていた歴史的な背景も大変参考になりました。

(松村 清)

2019年度後期スペイン語教室

後期講座開始日：2019年10月1日

創立29周年を迎えた横浜スペイン協会が運営する歴史のあるスペイン語教室です。当協会のスペイン語教室はスペイン語の習得だけでなく、スペインの文化にも幅広い知識や理解を深めることを目指しています。

1) お知らせ

- ・前期は4月、後期は10月に開講しますが、入会は随時できます。
- ・最初に見学を希望される方は、3教室、3回まで無料で見学ができます。
定員15名を超えた場合は、別のクラスに誘導させていただく場合があります。
- ・入門、初級クラスは日本人講師の指導でしっかり基礎を学び、中級以上は本場スペイン語ネイティブ講師が指導します。
- ・受講申込み及び受講費等の詳細については、後述3)「受講申込み及び受講費」をご覧ください。
- ・「新聞・雑誌をスペイン語で読むクラス」は各期に1回、外部から講師を招き特別講義を実施します。
今期の日程は後述「2019年度後期スペイン語教室日程と教室一覧」をご覧ください。

2) 実施中のスペイン語教室

2-1) 横浜駅西口教室

クラス名	レベル	項目	講座内容
1	リリオ	入門	授業日 講師 教科書 講座内容 受講料 第1.2.3 木曜日 13:00～14:30 中園 竜之介先生 「はじめてのスペイン語」ナツメ社 初めてスペイン語を始める方やもう一度基礎からやり直したい方向けのクラスです。 簡単な日常会話程度を目指します。 ¥1,500/回
2	アサレア	初級	授業日 講師 教科書 講座内容 受講料 第1.2.3 水曜日 10:30～12:00 栗山由美子先生 「Plaza Amigos」Español para hablar 直説法の復習を通して基礎知識の充実を図ります。 ¥1,500/回
3	セレソ	初級	授業日 講師 教科書 講座内容 受講料 第1.2.3 木曜日 10:30～12:00 山田るりこ先生 「ESPIGUITA」朝日出版社 「直説法過去」時制以降を主とした基礎的なスペイン語文法と、 現在形を使った実践的な会話練習を行います。 ¥1,500/回
4	ハスミン	初・中級	授業日 講師 教科書 講座内容 受講料 第1・2・3月曜日 13:00～14:30 山田るりこ先生 「Entre Amigos 2」 毎週シンプルな作文でアウトプット練習と文法の復習を行い、 スペイン語会話に繋げて行きます。 テキスト「Entre amigos 2」を使い文法練習をします。 ¥1,500/回
5	アマポーラ	初・中級	授業日 講師 教科書 講座内容 受講料 第1・2・3月曜日 10:30～12:00 山田るり子先生 1.講師作成のオリジナルテキスト 2.短編小説 Lola Lagoシリーズ「Lejos de casa」 冠詞の用法と接続法をオリジナルテキストで学習します。 また短編小説の読解を通じて単語力・表現力をつけていきます。 これらを交互に進めていきます。 ¥1,500/回
6	カメラア	中級	授業日 講師 教科書 講座内容 受講料 第1・2・3月曜日 13:00～14:30 ビクトル先生(Prof.Victor Pérez バルセローナ出身) 第1、第2月曜日は「Español en Marcha4」 第3月曜日はフランシスコ・ガルシア・パボンの「El Carnaval」を読みます。 テキスト、物語は一回の授業で1～2ページとゆっくり進みます。 毎回交代で簡単に自分の出来事などをスペイン語で話します。 授業はスペイン語で行われます。 ¥1,500/回

7	クラベル	中級	授業日 講師 教科書 講座内容 受講料	第1・2・3 水曜日 13:00～14:30 フランシスコ先生(Prof. Francisco J. Garzón Bravo グラナダ出身) 「Ele Actual B1」、物語読本「El Libros sin Autor」 基本的なスペイン語の文法を一通り終了しもう一段階上のスペイン語を目指すクラスです。 第1、第2水曜日:「Ele Actual B1」及び練習問題のプリント 第3水曜日:近況をスペイン語で発表した後、スペイン語の物語を購読。 授業はスペイン語で行われます。 ¥1,500/回
8	ビオレタ	中・上級	授業日 講師 教科書 講座内容 受講料	第1・2・3 水曜日 10:30～12:00 リタ先生(Prof. Rita Cantero アルゼンチン出身) 「El mundo en español B」 HABLA CON ENE社 現在のスペイン及び中南米について学びます。 会話中心の授業を展開しながら、芸術・文学・歴史・社会・伝統・習慣などを幅広く学びます。 授業はスペイン語で行われます。 ¥1,500/回
9	ヒラソル	中・上級	授業日 講師 講座内容 受講料	第1・2・3 水曜日 10:30～12:00 フランシスコ先生(Prof. Francisco J. Garzón Bravo グラナダ出身) 第1水曜日「Alatriste」(1人の男の冒険・歴史ロマン)の映画鑑賞と台本購読 第2,3水曜日ガルシア・マルケスの「Crónica de una muerte anunciada」を購読 授業はスペイン語で行われます。 ¥1,500/回
10	チャルラ	上級	授業日 講師 講座内容 受講料	毎月最終月曜日 10:30～12:00(開講日は次ページ「教室一覧表」をご覧ください) ビクトル先生(Prof. Victor Pérez カメリアクラス講師) スペイン語の新聞・雑誌等から政治、経済、社会、文化、その他の記事を取り上げ、それに関するディスカッションを通じてスペイン語力の向上を図ることを目標にします。 ¥1,500/回
11	特別講座	集中講座	授業日 講師 講座内容 受講料	毎月第3金曜日 13:00～15:00 吉田彩子先生 セルバンテスが残した唯一の中・短編小説集である「模範小説集」を読みます。 その時代・社会背景の解説と小説集の一部購読を行います。 会員:9,000円、非会員10,000円(6回分)
12	「文法講座」	集中講座	授業日 講師 講座内容 受講料	毎月1回(開講日は次ページ「教室一覧表」をご覧ください) 前半:山田るり子先生(3回) 後半:栗山由美子先生(2回) 前半:「様々なSE②」「日常会話で使う表現②」 「線過去と点過去、現在完了(実践編)少し長い文章の中での使い分け」 後半:「関係詞」(2回) 会員・クラス受講者:¥500/回、その他:¥1,500/回

2-2) 横浜海岸通り教室

波止場会館 教室所在地:横浜市中央区海岸通り1-1				
	クラス名	レベル	項目	講座内容
13	新聞、雑誌を読むクラス	上級	授業日 講師 教科書 講座内容 受講料	第4土曜日 10:15～11:45(今期は11月/12月は第3土曜、3月は第2土曜です) 栗山由美子先生 スペインの新聞・「El País」の記事を使用。 スペインとラテンアメリカ情勢を中心にしてスペインから見た世界の情勢を勉強します。 (討論は日本語で行われます。) 記事の内容を理解するには上級程度の語学知識が必要です。 ¥2,000/回(テキスト代その他を含む)

3) 受講申込み受講費他

① 各教室定員は、原則として15名。空席のある場合は会員優先で随時入会可。 **入会金不要**

② 受講料:各教室 ¥1,500/回 半期分前納(前期15回、後期18回)。
・横浜スペイン協会会員以外の方は別途事務費2,000円(各期ごと)が必要です(協会員は無料)。
・「新聞雑誌をスペイン語で読む」クラスは毎月新たな資料が必要なため受講料が異なります(2-2参照)

③ 使用言語:外国人講師は日本語も堪能ですが、教室では生きたスペイン語が中心です。

・お問い合わせ、お申し込み先: 下記のメールアドレスにご連絡をお願い致します。

E-mailアドレス: spanish_class@yokohama-spain.jp

(spanishとclassの間にアンダーバーが入ります)

●スペインサークル

《旅でスペインを識ろう会》

「さくら植樹・ロンダ市友好親善ミッションの事前調査とマルベージャ、グラナダの旅」

2019. 6. 10 於かながわ県民センター

ロンダプロジェクト実行委員の岩田さんから「さくら植樹・ロンダ市友好親善ミッション」の事前調査とマルベージャ、グラナダの旅の話をお聞きしました。まずさくら植樹の始まりとその後の経過について、当時ロンダに住んでいた春田美樹画伯の要望などもあり 1993 年、日本から持って行った苗木 200 本をロンダへ贈呈したのがスペイン協会のさくら植樹の始まりだったそうです。しかし、1995 年 EU が桜を輸入禁止品目に指定したことによりそれ以後は日本から苗木を持ち込むことはできなくなり、その後 4 回、さくら植樹に行っていますが、スペインに生育する桜に以前日本から持って行ったソメイヨシノを接ぎ木するという方法で行ってきたそうです。今までに植樹した約 250 本の桜の生育状況の確認をするのが今回の事前調査団のおもな目的でしたが、はっきり確認できたのは 25 本のみでした。来年のミッションの準備として、桜の本数の再確認、植える本数、植える場所などが課題となるようです。また



交流を継続させる仕組みづくりや文化交流の準備が必要とのことでした。ロンダは海拔 750 メートルの岩盤台地の上にある風光明媚な町であると同時に、歴史的にもナポレオンが攻めてきたときは断崖が要塞になり、また内戦の時はあの崖から人々を突き落とし虐殺も行われたとか、深い歴史が刻まれた町ということでした。最後に、来年 4 月に計画されている協会 30 周年のロンダさくら植樹と友好親善ミッションにぜひたくさんの方に参加していただきたいと締めくくられました。(山田小百合)

「スペイン巡礼の旅 — サント・ドミンゴ・デ・シロス村を訪ねて」

2019. 9. 9 於かながわ県民センター

今回は、5 月中旬に今村先生、原さん、臼井さんらが歩かれた“フランス人の道”のサリアからサンチャゴ・デ・コンポステーラまでの 5 日間 114 キロの旅とサント・ドミンゴ・デ・シロス村を訪れた時のお話でした。初めに今村先生より、その後ご専門となったヘミングウェイの小説との中学生時代の出会いから、初めて書いた「日はまた昇る」と最後に書いた「老人と海」の両方にヤコブ（ジェイコブ、サンチャゴ）という名の主人公が出てくることなどのなぞ、そしてヘミングウェイが何度も足を運んだサンチャゴ・デ・コンポステーラに今回行くことができた喜びをお話されました。そして、シロス村の修道院で見たロマネスクの円柱の美しさを写真と共に説明されました。

原さんと臼井さんからは、道中経験した 1 泊 10 ユーロ、2 段ベッドのアルベルゲの宿の様子、パエリャ、タコ、肉等の美味しかったローカル料理、初めて遠方から眺めた大聖堂をバックに道中一緒になった女性グループと記念写真を撮った話や、道中仲良くなった家族に家によばれたことなどが披露され、巡礼ならではの体験が盛りだくさんでした。(岩田岳久)



※ 7月の「旅でスペインを識ろう会」は古賀恵子さんによる
『早春のバレンシア』がありました。2019.7.6 於かながわ県民ホール

《サークル・CLUB2020》

＜スペイン・セーリングチーム交流会＞

2019.8.12 於逗子アリーナ

オリンピック開催まで残すところ1年、横浜都市ボランティアは落選、チケットも全て外れ、心がささくれているところに綺羅星のごとく現れたのが、逗子市の「市民応援団」募集のお知らせ。逗子市は昨年よりセーリングのスペイン・プレオリンピックチームのキャンプ地となっており、選手との交流の機会を持てると！ 我らが club2020、そして横浜スペイン協会からも多数がボランティアとして参加しました。交流会当日、イベント開始から1時間ほどは来客もまばらでしたが、30名を超えるチーム関係者が入場すると、会場は一気に熱気に包まれます。壇上での紹介が終わると、神輿の披露や選手と一緒に踊る「東京音頭2020」。数百人があふれる会場でエアコンはほぼ効かず、揃いの赤いポロシャツに法被姿の選手たちは汗だくでした。また、来場客との記念撮影や、通訳を介した市民との会話、風船つりや射的などの屋台も体験し、楽しいひと時を過ごしていただけたようです。後日、ワールドカップ江ノ島大会のメダルレースが行われ、絶対女王シルビア・マス&パトリシア・カンテロが金メダル、ジョルディー・シャマー&ニコ・ロドリゲスが銀メダルを獲得しました（ともに470級）。応援していた私たちも鼻高々です。これを機に、市民にも広くスペイン文化を知ってもらい、スペインチーム全体の応援をしてもらえるよう、逗子市では2021年3月末まで様々な関連イベントが行われる予定です。club2020のメンバーも、協力できることがあれば進んで参加したいと思っています。



(山田るり子)

●スペイン文学余話（7）

「ハビエル・マリアスの『女が眠る時 *Mientras ellas duermen*』」

英国のブックメーカーの賭け率のせいだろうか、近年はノーベル賞候補として注目されるハビエル・マリアス Javier Marias は、民主主義スペインを代表する作家で、いくつかの作品が翻訳されている。*Mientras ellas duermen*は同名の短編集（1990年）のための書き下ろしである。語り手である「私」は、妻とメノルカ島の海辺で夏のバカンスを過ごしている。ある日二人は風変わりなカップルを目撃する。禿げて太った初老の男と若い絶世の美女イネス。イネスの古典的で完璧な美しさは「アニメ（のヒロイン）か、官能をくすぐらない薬品の広告モデルのような」と表現される。彼女は浜辺で美しく肌を焼きながら、鏡を手に体の手入れに余念がない。そんな彼女を男はビデオカメラで撮影しつづける。なぜ男がビデオの記録に執着するのかは、種あかしになるので触れないが、先日ビートたけしと西島秀俊の映画（2016年・ウェイン・ワン監督）を観て、ヨーロッパとアジアの文化の違いを痛感した。スランプに苦悩する小説家の「私」が、編集者でもある妻（職場と

往復しながら不倫もしている気配)と、海辺のホテルに滞在する設定はバカンスとはかけ離れている。初老の男と美女の至上の愛が、映画では援助交際に見えてしまうのも恋愛文化の相違だろう。ハビエル・マリアスが描くバカンスには、ゆったりとした時間が流れている。自分を空っぽにした時にしか見えない他者の人生がある。「ここは島で、私は時計を持っていなかった。Estabamos en una isla, no tenía reloj.」ある深夜、妻やイネスが部屋で眠る間に、男はプールサイドで「私」にイネスとの恋愛の経緯を告白する。スペイン版の『ロリータ』ともいべき恋の情熱は、狂気の選択にたどりつく。「それとも、この期におよんで愛の終りを私が受け容れるとでも思うのか？」スティーヴンソンやサマセット・モームをひきあいに出すまでもなく、「島」は永遠の物語空間である。「島」では、物語の夢の波が現実を呑みこんでゆく。男の物語のリアリティーを担保するものはない。映画では、男がビデオを撮影する場所を、真昼のビーチではなく美女が眠る夜の部屋に変え、川端風のエロティシズムを際立たせている。(吉田彩子)

●シネマサロン

「誰もがそれを知っている」(Todos lo Saben)

監督:Asghar Farhadi (イラン)2018 スペイン etc. 主演:Penélope Cruz, Javier Bardem

アルゼンチンから妹・ロシオの結婚式のために帰ってきたラウラー家。空港からの車の中では大はしゃぎ。久しぶりの家族との再会、町の教会での結婚式、その後のパーティー。着飾った人々、にぎやかな演奏と踊り、たくさんのごちそうとワイン。そして突然の雨と停電のさ中、ラウラーの娘が消え、身代金の要求がスマホに届く。その娘はラウラーの昔の恋人・パコとの間にできた子供だったが、ラウラーと

夫は二人だけの秘密にしていた。そのことを聞かされたパコは度重なる要求を分析し身近な者の仕業と考え、娘を助ける方法を考える。今パコがうまく経営しているブドウ園は、ラウラーの父が昔賭け事で負けたせいで手放したものだ。村はずれの崖の上、夜明け前に取引が行われる。パコの車の中に身代金(ブドウ園を共同経営者に売って作った)があることを叫ぶと、暗闇の中で身代金が消え、娘は後部座席に押し込まれていた。ラウラーの母は気付いていた。ロシオが泥だらけになって朝帰りをしていたのを。その夫や仲間も一味らしい。ラウラー家は逃げ出すように帰って行った。

(松本益代)



●対外交流

横浜スペイン協会の対外交流の主な活動は次の2つです。1つは、国内にある他のスペイン協会との交流を密にする事。次にスペインとの文化交流を積極的に行う事です。2つ目について、現在、神奈川大学及び横浜市国際局への具体的な活動を始めています。神奈川大学にはスペイン語圏の人々との文化交流をより活発に行うための提案、横浜市国際局へは当協会の活動情報の提供です。以下これらの活動について紹介します。

神奈川大学とは、昨年度から、横浜スペイン協会で毎年行う新年懇親パーティーに、神奈川大学へ来ているスペイン語圏の交換留学生を招き、会員の皆さんとの交流を行っています。今後も、交換留学生を新年親睦パーティーに招き、会員の皆さまとの交流を図りたいと考えています。また当

協会で開催されるスペイン・サロンに関しても、スペイン語学科の学生を対象として講演会への参加をお願いし、交流の輪をひろげていければと考えています。

横浜市国際局との交流については、ここ数年間活動がない状況でしたが、今年度より横浜市と横浜スペイン協会間の積極的な交流を始めています。横浜市国際局へは、スペインでの文化交流として、ここ数年のスペイン北部の町でのさくら植樹や、訪れた各町での小学校等で行った、折り紙や、吹き矢等の市民レベルの文化交流活動の報告を致しました。また、来年予定している22年ぶりのロンダでのさくら植樹と市民交流など、当協会の現在の活動内容を紹介してきました。横浜市からは、横浜スペイン協会はスペインとの市民レベルでの国際交流を行っているとの評価を頂きました。

今後も、横浜市国際局と連携を取りながら市民レベルでのスペインとの国際交流を推進・継続していきます。(武菱邦夫)

* “北海道スペイン協会” 木下泰男副会長兼事務局長との面談

9月の中旬、札幌市へ義父の墓参に行く機会がありその際、北海道スペイン協会の副会長兼事務局長の木下泰男氏にお会いし、色々な情報交換をすることが出来ました。お目にかかるのは今年の7月以来でした。南会長はスペイン・ポルトガルへのご旅行中という事でお目にかかれなくてとても残念でした。協会の近況と運営等を中心に広きに渡りお話をしました。継続的に、理事を中心に約50名の会員の方々が積極的に動かれ、会報の発行、総会、講演、講習会や料理教室などのテルトリア(サロン)の主催など、幅広い活動をされてることを理解致しました。会員の高齢化、後継者育成の課題という共通の悩みも共有しました。最近、他地域の協会にて後継者不在による協会の解散、休会という残念な動きもあります。各地域の協会がさらなる交流を深め、協力をしあって活動を盛り上げて行きたいと考えております。(下山利明)



●会員の活動報告

ギターの女王 マリア・エステル・グスマン

～アランフェス協奏曲～in Yokohama with 高木洋子コンサート

2019.10.19 於横浜市磯子区民文化センター杉田劇場

当協会が後援している会員のピアニスト高木洋子さんのコンサートに伺いました。昨年6月のクエンカ兄弟との共演コンサート以来です。今回のプログラムは三部構成と盛りだくさん。まず、始めにギターアンサンブル：カンパニージャに続き、高木洋子さんのピアノソロ。そして高木さんとマリア・エステルさんのピアノとギターの共演にて息の合ったアランフェス協奏曲を演奏、最後にマリア・エステルさんのソロ演奏という構成でした。流石、ギターの女王と称されるマリア・エステルさん、名門音楽家の出で4歳でデビュー、数々の国際コンクールでの優勝、入賞経験もお持ちです。その完璧なテクニックには圧倒されました。丁寧で優しく、そして時には激しく静から動へ、高度なテクニックを駆使した、今迄に経験したことのない素晴らしいギター演奏を堪能しました。高木さんは毎年定期的に日本でのコンサートを開催しており、会員の皆様には会報等でご案内しております。次回は、是非とも皆様と楽しい至福の時間を共有しましょう！(下山利明)

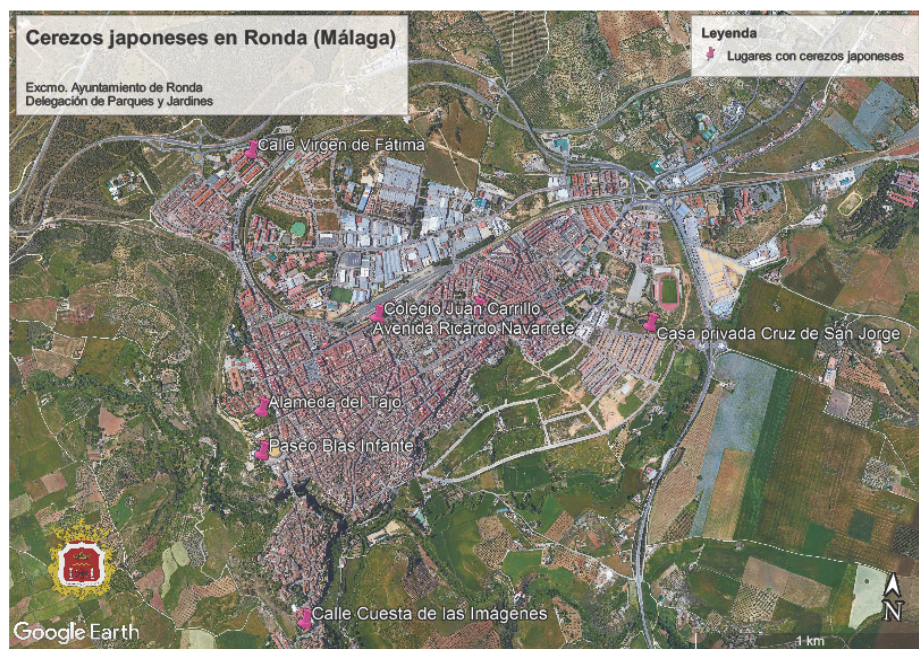
横浜スペイン協会創立 30 周年記念事業

🌸 さくら植樹 ロンダ市友好親善ミッション（ロンダプロジェクト）について

ロンダプロジェクトは、8月2日のキックオフミーティングに続き、9月25日に第2回ミーティングを開催し、16名の方が参加されました。このミーティングではマドリードから Skype で参加された鈴木さんより4月に行われた選挙の結果、前回事前調査時に面談したロンダ市長以下責任者が公園管理責任者を除いて交替してしまいましたが、幸いロンダプロジェクトのキーマンであるカベッサさんが新しいロンダ市長のマリアパスさんと近しいことから影響はないであろうとの話がありました。また、その後のカベッサさんとのやりとりで2000年4月に当協会が横浜に招聘したロンダ市代表団の一員としてマリアパスさんも参加していたことが判明しました。会員の中には右の写真の彼女を覚えておられる方がいらっしゃると思います。



そして、過去に植樹した桜の木は事前調査時に25本しか確認できませんでしたが、その後公園管理責任者のフアンアントニオさんより新たに5本存在しているとの連絡があり、合計30本の桜が存在する7箇所の場所を示した地図（以下添付）を送ってきたことを報告しました。新たに分かった5本の桜の木は、地図左上の Calle Virgen de Fatima の公園に1本、中央左の Alameda del Tajo 公園に3本（追加）、右端の Cruz de San Jorge の個人宅の庭に1本の合計5本。

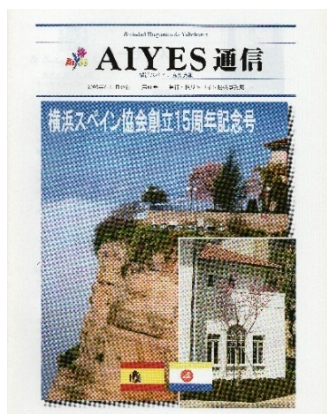


ロンダプロジェクトは、来年4月2日、3日の2日間行う計画で、現在20名の参加予定者が集まり、市民文化交流で行う書道、華道、茶道、折り紙などのデモンストレーションや交流の具体的な進め方などについて話し合いを始めています。次回ミーティングは、12月4日の予定で、今からでも参加されたい方は歓迎しますのでご連絡ください。（ロンダプロジェクト担当 岩田岳久）

🌸 横浜スペイン協会創立 30 周年記念イベント予告

来年 2020 年、横浜スペイン協会は創立 30 周年を迎えます。この創立 30 周年を記念して、様々なイベントを計画しています。今回はこの記念イベントについて紹介いたします。これらのイベントに、会員の皆様方の参加をお待ちしています。

- 2020 年 2 月 ■新春親睦パーティー（スペイン大使、文化・科学参事官招待）
2 月 1 日（土）於：ポートヒル横浜
- 3 月 ■スペイン大使館にさくら植樹（2 月下旬～3 月上旬）
創立 15 周年には大使館に桜の記念植樹を行った。（下写真参照）
今回 15 年ぶりに植樹を行います。記念植樹参加者募集予定。
- 4 月 ■ロンダ市表敬訪問
さくら植樹と市民文化交流 詳細は P10「ロンダプロジェクト」参照
※私たちのスペイン展 絵画、写真等募集要項の通知
- 5 月～6 月 * 特別講義サロン 「中近世スペインの宗教的マイノリティ」
—ユダヤ人とモリスコー—
講師：関 哲行 流通経済大学教授
* 特別講義サロン 「スペイン人から見た日本の文化、生活」
講師：スペイン大使館
- 7 月～8 月（オリンピック、パラリンピック）
- 9 月 ■横浜スペイン協会 創立 30 周年記念
私たちの スペイン展
9 月 28 日（月）～10 月 1 日（木）
於：かながわ県民センター 1 階 展示場
・協会誕生から 30 年の歩み（記念写真等）
・協会会員の作品を多数展示いたします。（写真、絵画、陶芸）
- 11 月 ■横浜スペイン協会 創立 30 周年記念
記念パーティー
11 月 21 日（土） 於：ポートヒル横浜
*一部 私たちの音楽祭（音楽家の会員の皆さま）
*二部 祝賀会



AIYES 創立 15 周年記念号表紙



スペイン大使館の桜 近影
(創立 30 周年記念担当 武菱邦夫)

*** 協会からのお知らせ ***

*次回のスペイン・サロン

11月9日(土): 「戦争を描く、ゴヤからピカソへ: 《1808年5月3日》と《ゲルニカ》
をとり結ぶものとは?」

時間 : 13:00~15:00 (講演会終了後~15:30 まで茶話会)

講師 : 早稲田大学名誉教授 大高保二郎

会場 : かながわ県民センター304号

参加費 : 1000円 学生 500円

お申込み : spain_salon@yokohama-spain.jp (服部・平本)

※10月12日「ゴヤ ロココ美と戦慄の近代: 雅宴から戦争へ」は台風19号による特別警報発令を受け中止となりました。

次回講演は10月12日分の内容を盛り込んだ2時間講演となります。

<<賛助会員各社の会員サービス内容>>

◆会員証の提示で、下記賛助会員企業より表記のサービスが受けられます。

賛助会員	住所	☎番号	会員サービス
カサ・デ・フジモリ関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サングリア 1杯無料
Bar Español	横浜市中区相生町2-43-2	045-651-1074	サングリア 1杯無料
スペインバル ボデガ・デ・サリア	東京都港区台場2-2-1 ザ・クルーズ・ダイアネックスホール1F	03-5531-2151	生ビール一杯無料

《編集後記》 ラグビーW杯開幕の日、札幌に居りました。札幌ドームに観戦に来ている外国からの人々で市内はどこも行列。札幌といえばビール。ラグビー観戦にビールは欠かせない!という事で、酒豪揃いのラグビーファン用に、市内の各飲食店は普段の3倍量のビールを用意していたそう。行列で前後し仲良くなったイングランド人夫妻と色々な話で盛り上がり、私なりの「オ・モ・テ・ナ・シ」。残念ながらスペイン語圏の人には遭遇せず、語学学習の成果は発揮できませんでした。来年 **TOKYO 2020** でも、インターナショナルな触れ合いは必然と実感。ホント!いよいよなんですよお、皆さん! (A.S)

編集長/下山綾子 編集委員/ 岩田岳久 白井慎一 古賀恵子 下山利明 武菱邦夫 服部君江 平本紀子 福長昭代 松村清

投稿寄稿宛先

E-mail

全般 : info@yokohama-spain.jp

スペイン語教室: spanish_class@yokohama-spain.jp

スペイン・サロン: spain_salon@yokohama-spain.jp

ホームページ : <http://www.yokohama-spain.jp>

横浜スペイン協会

次回の原稿締切は

12月10日(火)です